

OZONE ウルトラライト3 フライトインプレッション



ENの認証をパスした世界最軽量パラグライダーとして進化してきたオゾン ウルトラライトがついに3代目に突入した。

その軽量化の技術、飛びはいかに？

それにしてもオゾンのラインアップの豊富さには驚かされる。

初級用からコンペ用、アクロ用、軽量パラなどで実に17機種もラインアップがあるのだ。

他にモーターパラ用、スピードパラや立ち上げ用専用パラなどを入れると29機種。

ここまでくるとオゾンフリークでも全ての名前を覚えるのは大変だ。

驚くべきは、その中の多くのジャンルでオゾンは世界NO.1を誇っていることだ。

今回ご紹介するウルトラライト3 (UL3) もそのひとつ。

他メーカーがまね出来ない圧倒的な軽量技術で、どの他の軽量モデルよりおよそ300gはリードしていると自負している。

軽量ライダーのパイオニア的存在として進化し続けているのだ。

まず今回乗ったデモ機 23サイズの重量は2.495kg。

通常の大サイズのパラとしては約半分の重さで、小数点以下3桁まで重量が表示されているのにオゾンのこだわりが感じられるではないか。

4サイズあるうちの3サイズの飛行重量が一緒なのは、ソアリング目的として使うか単なる下山として使うかでサイズを選んで欲しいということらしい。

上下面に使用されるのはポルシェ製の生地だが、上面も場所によって生地の厚さを使い分け軽量化と強度のバランスをとっている。

ライザーは、ダイニーマ製で前モデルよりも40g軽量



化された。ブレークコードを取り付ける為の金属製のホックさえも廃しベルクロで固定。もちろんラインはブレークコードを除き全て被覆なし。

金属製のラピッドリンクは使わずにリンクライトを使って軽量化している。



驚いたのは、生地を折り返し部分の縫い方だ。前縁と後縁のエッジの部分は、生地を合わせ縫いしているがその生地を少なく使って軽量化するため縫い幅が狭いのだ。

通常 10~12mmほどの生地の幅で縫われるものが多いが、UL3の場合8mmしかない。この8mmの中に均等に2本のミシンの縫い目を曲がらずに縫う技術は、ミシンを一度でも使ったことがある方は関心するだろう。

オゾンは、全てのグライダーを自社工場で作っているのだが、この技術だけでも惚れ惚れする。

マニアックすぎて関心がない方も、手にすることがあったら細部の作りを見て欲しい。

ちなみに今回フライトした23サイズの飛行重量は65~95kgで、私の飛行重量は73kg。下限プラス8kgでのフライトだ。

まず、キャノピーを手に持って広げる時点で圧倒的な軽さに驚いた。

ライズアップは、Aライザーに手を添えて荷重が少しかかった瞬間から上がり始める。微風があれば平地でもAライザーを持たなくてもライズアップできた。

とにかくこのうえ無く軽いと思ってもらえればよい。



頭上安定は抜群によく、今市場に出回っているパラグライダーのなかで最高に良いと思う。微風でもずっと頭上でとどまっているのだ。

冬の朝霧は、強いサーマルでグライド中結構揺らされるのだがUL3の特徴のひとつを感じ取ることが出来た。 乗り心地が良いのである。

強い突き上げの際は、キャノピーがカサッと音を立てることがあるが、パイロットにはマイルドに挙動を伝えスムーズに滑空することができる。

フルグライドのスピードは、通常のグライダーと変わらない。

下限気味でのフライトなのもあるだろうが浮きが非常に良い。私の適正だともうひとつ下の21サイズでいいのかもしれない。

ターンの特性は、クイックすぎず丁度よい。乗っていて楽しいハンドリングだ。

サーマルで回している間も、翼の動きがよくわかり効率よく上昇できた。ソアリング性能はあなどれない。



失速までのブレークストロークは非常に長い。失速付近ですっとコントロールできるほどで、なかなかフルストールに移行しないのはキャンピーが軽いおかげもあるのだろう。

スパイラルは一定の速度からは加速していかない特性でコントロールがしやすい。

フルアクセルをすると、生地特性からか風圧で前縁が少し押されてシワが増えリブが少し変形する。スピードは、必要十分。

ランディングしてまず思うのは、キャンピーを絞った時の軽さで担いでも全くくにならないことだ。

最後に、

オゾンからは、1.3kgのリバーシブル超軽量ハーネスも発売されている。

ウルトラライト3と軽量パラシュート、軽量ハーネス、半キャップを入れて総重量5kg！
なんともうれしい数字だ！

このグライダーはセカンドグライダーとして購入する方が多いのだろうが、性能はしっかり出ておりハンドリングや浮きの悪さ、スピードにがっかりすることは全くない。

むしろ積極的にUL3を使う機会が増えて、今まで使っていたグライダーがお蔵入り！？
なんていう事態になり得るかもしれない。